

ひろば

Vol.146

HIROBA

発行日：2023.6.1 発行人：安達 洋次郎

〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5 TEL & FAX 03-5371-2732 (事務局)
<http://www.kougei-dousoukai.jp> dousoukai@kougei-dousoukai.jp (受信専用)



卒業制作展
卒業のことば
フォックス・タルボット賞
ホームカミングデー
学位授与式
ひろばのページ

東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展

卒展委員長の言葉

「東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2023」は2023年2月17日(金)から19日(日)まで三日間中野キャンパスで行われました。芸術学部の7学科(写真、映像、デザイン、インタラクティブメディア、アニメーション、ゲーム、マンガ)と大学院芸術学研究科が揃って、展示・上映を無事に終わることができました。今年は新型コロナウイルス対策のため招待制を基本にして、事前予約制も取り入れた開催になりました。学生の皆さんを始め教職員、同窓会の皆様のおかげで無事に終わることができましたことをご報告するとともに同窓会の皆様には深く感謝申し上げます。

展覧会は中野校舎で行われました。1号館では映像学科の作品上映、展示、2号館では映像学科、アニメーション学科の作品上映やゲーム学科の作品展示が、3号館ではデザイン学科の全領域の作品展示、5号館では写真学科の作品展示、6号館ではインタラクティブメディア学科、マンガ学科の作品をお披露目することができました。今年では創立100周年記念として、「卒制展×創立100周年」展を1号館の1階、2階の壁面の空間を利用して企画しました。本学100年の歴史が伝わる写真の展示や卒業制作展の様子を、当時の写真や卒業制作展ポスターを用いて構成しましてお披

露目し、ご来場の皆様には好評を得ました。

また同窓生による特別講演も復活しました。お笑い芸人ノボセもんなべ氏(映像学科OB)、イラストレーター、本学教員の遠藤拓人氏(デザイン学科OB)による在学時代のお話は大変素晴らしく、大講義室は熱気に包まれておりました。

来場者の数も新型コロナウイルス発生以前の人数に回復しておりまして、会場の雰囲気も百花繚乱、絢爛華麗でございました。

私のことで恐縮ですが、今期を以て委員会を離れることになりました。卒業制作展に於かれましては皆様には大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、今年度の卒業制作展は2024年2月16日(金)から2月18日(日)まで開催を予定しております。新委員長を中心に引き続き、学生生活の集大成である卒業研究の成果が各会場でさらにパワーアップした形で展示できるよう、同窓会の皆様にはご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

卒業制作展委員会委員長
教授 李 容旭(映像学科)



吉野学長



大島芸術学部長



石川大学院芸術学研究科長



オープニングセレモニーに集まった学生・教職員

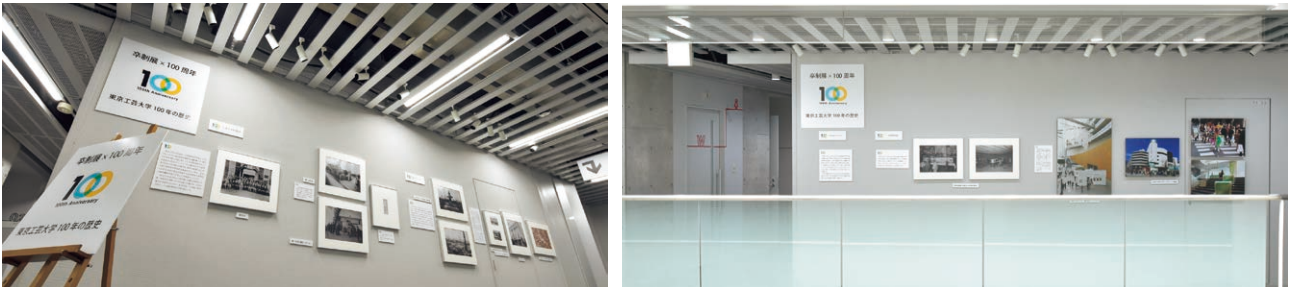


メインビジュアル(デザイン学科4年・近藤 快さん
作品タイトル「百物語」)

2023 招待制で開催



大学創立100周年企画

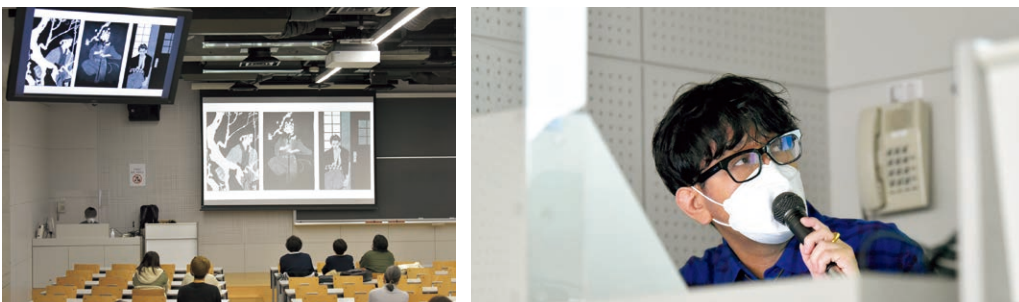


開学時の校舎写真、授業風景などパネルで展示

芸術学部卒業生によるトークショー／特別講演

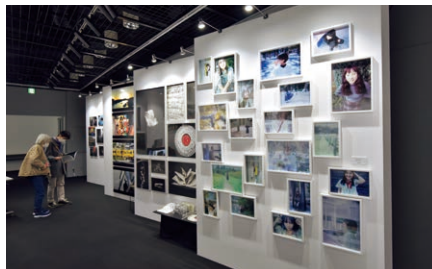
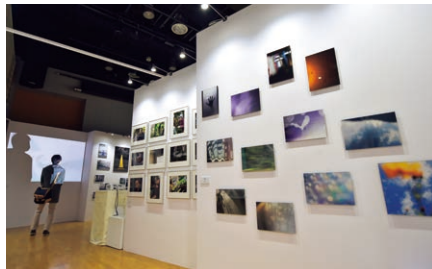


お笑いタレント「ノボせもんなべ」トークショー



デザイナー「遠藤拓人准教授」特別講演

卒業制作展の写真提供：
都筑写真事務所



卒業の言葉

写真学科 高森 千瑛

大学生活では自らの言動や判断に責任を持ち、やりきることの大切や難しさを多く学びました。自分の考えや経験をもとに、それらを作品として作り上げていく過程は楽しいことばかりではありませんでしたが、その都度生まれる悩みや葛藤は作品への理解を深める良いきっかけとなりました。そこで試行錯誤を繰り返し得た学びや経験もまた私の糧であり武器であると感じています。

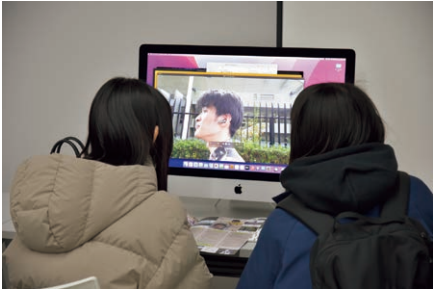
特に4年次ではSA(実習の教育補助員)を任せていただいたり、東川町にボランティアに行くなどとても貴重な時間を過ごすことができました。

そして、私がこうして卒業を迎えることができるのはた

くさんの方々の支えがあったからだ実感しています。親身になって相談に乗ってくださった先生方や切磋琢磨できる仲間、応援してくれた家族の存在がとてもありがたく、日々感謝しています。

4年間を通して学んだものは写真に限らず人としても成長できたと感じており、これらの経験を糧に今後も精進してまいります。





卒業の言葉

映像学科 須田 恵永

当時、高校生の僕は全校生徒の前で自分が制作した映像を見てもらう機会(文化祭開会式・学校説明会等々)がありました。その中で卒業式のEDを制作した際、それを見た後輩や保護者の方、他校の生徒から「自分の卒業式かのように感動した」「元気がない時にこれを見て頑張れる」など沢山の感想をいただき、自分が努力する事で、多くの人に感動やエネルギーを届けられる喜びを知り、もっと“映像”について勉強したいと思い、この東京工芸大学の映像学科に進学しました。ですがコロナの影響もあり、思っていた大学生活が送れずにいました。しかしこのまま何もせず4年が終わるのは嫌だったので、仲間と自主的に映像制作を行いました。そこで様々な人と出会い、同じ好きなものに対して熱くなれる時間は、自分にとってとても貴重な時間だったと感じます。そして4年生の卒業制作

ではプロデューサーとなり、今までの経験を活かして、チームを引っ張り、幾多の困難を乗り越えて無事に一本の映画を完成させる事ができました。映像制作は絶対平穩には完成しません。特に映画は集団で制作していく為、それぞれの意見をどう上手くまとめるかも至難の業です。時には誰かと衝突することもあります。自分が思ってもいない事の連続です。それをどう対処し、どう乗り越える事ができるか、僕はこの大学4年間で“映像”だけではなく、人と人との大事な繋がりも学ぶ事ができました。



卒業制作展

デザイン学科 グラフィックデザイン領域



卒業の言葉

物心が付いた頃から絵を描いたり、作ることが好きで東京工芸大学に入学しました。

私は元々、絵を描く仕事に就きたいと思っていましたが、様々なデザイン分野を授業で学ぶ中で、幅広い表現方法や一枚の絵で視覚伝達するグラフィックデザインの魅力に惹かれていきました。

将来は色々なデザインをしたい気持ちがありつつも、どんなデザインをしたいかが明確ではありませんでした。しかし、デザインにおいて「伝え方」が重要だと考え、「広告を学べばパッケージやロゴなど他のデザインにも応用が効くのでは」とふと思ったのがきっかけで広告の道に進みました。

私は課題のアイデア出しと制作において自分の考えだけでなく、「客観的に見たらどう思うか」を想像して制作する

デザイン学科 グラフィックデザイン領域 朝隈 凜

ことを意識していました。制作を進める中で作りたい作品や完成イメージについてなど悩むこともありましたが、先生からのアドバイスを受け、自分には足りなかった部分を発見して修正する度に自分の作品が良くなっていくことを実感できて、とても嬉しかったです。また、デザインの伝え方についてもたくさん学ぶことができました。

何気なく進んだ道ではありますが、結果的に自分に合っていると思います。

これからも自分なりにデザインを追求していきたいです。



卒業制作展

デザイン学科 イラストレーション領域



卒業の言葉

私は、大学生活で沢山の経験や知識を積むことができました。もともと、幼い頃から絵を描くことが好きで、装画を描く職業があることを知り大学を選びました。

大学入学後は、イラストレーションという分野がどういうものなのか知らず、授業の中で触れ合いながら学んでいきました。現役の先生方が実際の仕事でどんなことをしているのか。イラストレーションの知識をこと細やかに教えていただきました。研究室に所属した後も絵の方向性を模索しながら表現をしていきました。私の絵は、写実描写で描くスタイルなので、オリジナリティを出すのに苦労しましたが、自分らしい絵を描くことが出来るように

デザイン学科 イラストレーション領域 岩口 ことは
なってきたと思います。

卒業制作では、憧れだった装画をテーマに制作に取り組みました。4年間の集大成なので、どういう風に描けばいいのか考えがまとまらないこともあり、難しい制作でしたが、作品と向き合いながら絵の魅力を引き上げていくことができたと思っています。



この4年間、とても貴重な時間を先生や同期たちと過ごすことができました。卒業後は、イラストレーターとして活動し、日々努力していこうと思います。

卒業制作展

デザイン学科 映像情報デザイン領域



卒業の言葉

私の大学生活は、行動をし続けることで様々な景色を見ることができました。

高校ではダンス、大学ではカッコいいデザインを学びたい。そんな単純な考えで入学しました。

しかし、いざ学び始めると自分のデザインへの考えが表面的で努力が足りていないことを思い知りました。

ゼミでは、ユーザーインターフェースというデザインを初めて学び、さらに考えを相手に正しく伝えるプレゼンテーション力を身に付けました。

また、一人の作品を全員で作るかのような意識を持つことで多様な考えを養ったり、先輩後輩関係なく議論をすることで自分の考えに責任を持って深く考える癖ができました。

上手いかず何度壁にぶつかっても、成長したい！と

デザイン学科 映像情報デザイン領域 土田 友梨奈

いう気持ちで前に進み続けたことで、少しずつ自信ができました。

さらに、ダンスの経験が卒業制作での体力維持や諦めずに案を出し続けることに繋がり、人生無駄なことは一つもなく、まずは行動をすることが重要だと実感しました。

新しいジャンルのデザインを学ぶことを恐れず行動し続けた四年間は、充実した時間で自身を大きく成長させました。

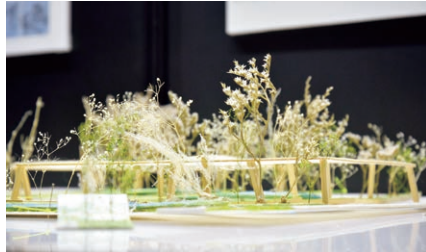
卒業後も常に好奇心を忘れずに行動をし続けようと思います。



卒業制作展

デザイン学科

空間プロダクトデザイン領域



卒業の言葉

デザイン学科 空間プロダクトデザイン領域 コカブun(胡嘉文)

17年、中国の高校を卒業した後、デザインに対する漠然とした概念、そして情熱を持って、一人で日本に留学しました。美術について無知だった私は、予備校での一年間の必死の勉強の末、東京工芸大学の合格通知書を受け取った時の感激は今でもはっきり覚えています。四年の歳月、光陰矢のごとし。振り返ってみると、収穫が豊かで、最高の先生や友人に出会いました。私が最も恩恵を受けたのは、東京工芸大学デザイン学科のユニークなカリキュラムで、学生はすべてのデザインの分野を学んだ後、希望の進路を選択することができます。未来への不安を打ち消しただけでなく、さまざまなデザインの表現方法に触れることができました。

アートとデザインの違いは何ですか？いろいろな解釈を聞きながら、自分の中の答えを探していました。空間プロ

ダクト研究室に入ってから、永井先生や高梨先生の指導のもと、課題制作のノウハウの経験を積んで、検討と最適化を重ね、デザインに対する考えが徐々に成熟していったと思います。新型コロナウイルスが去りつつある今、東京工芸大学も100周年を迎え、私たちもこの節目に社会に出て、うまくいくことを祈っています。「アートとデザインの違いは何ですか？」という疑問の答えを私もようやく見つけることができました。アートが隣の部屋から突然聞こえてくる美しいピアノ曲だとすれば、デザインはあなたの目の前にあるピアノの楽譜を使って、積んだ経験、練習と審美を尽くし、完璧に演奏することだと思います！



卒業制作展

インタラクティブ メディア学科



卒業の言葉

インタラクティブメディア学科 橋爪 瑞葵

大学には、就職に足り得る技術を身に付けようと思い入学しました。そのため、バイトやサークル活動の経験はほぼ無く、4年間ほぼずっとCGを制作していました。CGも大学の授業で触れるのは初歩までで、高校の段階である程度身につけている部分だったので、実際にはほぼ独学での勉強でした。そのため、本当に大学で学ぶ必要はあるんだろうかと悩むこともありました。一方で、民族学や美術史、アニメーション史など、高校では学べない学問に強い影響を受け、大学に入って良かったと思えました。

入学してしばらくの間は、自分が好きなものを作りたいから、という理由で制作を行っていました。しかし、大学

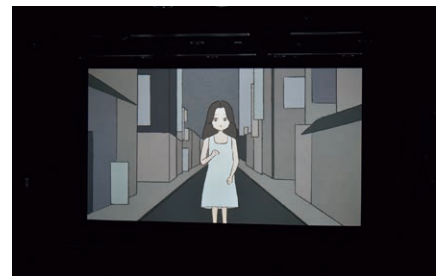
生活の中で多くの作品に触れ、それ以上に誰かに喜んでもらいたい、誰かの記憶に残るようなものを作りたい、というように制作に対するモチベーションが変わっていきました。今回の卒業制作でも、多くの人がワクワクとした気持ちになれるように、と思いながら制作をしました。

卒業後も、そのような心持ちで制作を続けていければと思っています。



卒業制作展

アニメーション学科



卒業の言葉

アニメーション学科 鯉沼 成香

「1年生が、1番楽しかった。」大学生活の思い出を語る時、友人たちと口を揃えて言ってしまいます。ですが本当にそうでしょうか。たしかに課題に追われながらも新宿に繰り出て遊んだことや、5限が終わっても帰らずに食堂でひたすらお喋りことは一生の思い出です。しかし2年生から新型コロナウイルスの感染拡大による未曾有の事態になり、不安と我慢の日々でしたが、そこでの基盤が今に大きく繋がっています。じっくりと集中してオンライン授業を受け、学科の分野だけでなく他学科の科目や領域に興味を持ち、自分なりに考えを深めたこと。同好会の活動ではオンラインで話し合っ作業を進め作品が完成し、大きな達成感と喜びを仲間と分け合ったこと。この4年間で私

は豊かに自由に考え抜き、形にする大切さを学びました。ただアニメが何よりも好きで、自分の興味を追求しようと飛び込んだ工芸大。振り返れば、やはり1年生が最も充実していたかもしれませんが、制限の多い中で工夫して好奇心や学びを力にでき、どの学年も一生懸命駆け抜けました。私は春からアニメ業界で仕事をします。支えてくれた家族や友人、先生方など周りへの感謝と、工芸大でのおもちゃ箱のような思い出を胸に一層精進していきます。



ゲーム学科



卒業の言葉

ゲーム学科 湯原 奈々美

この大学で過ごした4年間は、私の制作にとって大きな意味のある4年間でした。

元々、デザインが好きで、高校時代から作品を制作していました。大学に入るまでは、作品を制作する時もほとんど最初から最後まで一人で制作していましたが、大学で学んでいく中で、チームメンバーと協力しながら制作を進めることが多く、自分の力不足を痛感することもありました。しかし、同じチームの友人である彼らと共に助け合いながら、一つの作品としてゲームが完成したときの喜びは、いまだに強く自分の中に残っています。

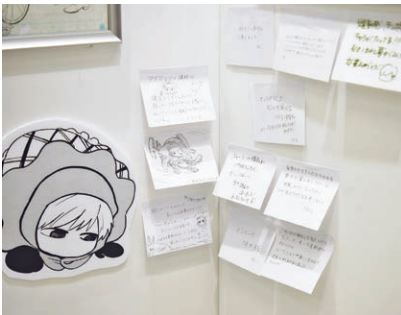
新型コロナウイルスの流行により、授業や制作もオンラインで行われている中、一つの作品を完成させるために協力し

合う姿は、今まで私が考えていた作品制作に対する考え方を考えるきっかけになりました。今までの、自分が楽しいだけの制作ではなく、チームの友人と苦楽を分かち合い、完成したものを人に楽しんでもらうための制作を意識し始めたことは、私のこれからの人生にとって大きな意味のある経験でした。

これから、社会に出て働いていく中で辛いこともあると思いますが、この大学で学んだことを生かして、誰かに喜んでもらえるような作品を制作していきたいと思っています。



マンガ学科



卒業の言葉

マンガ学科 吉田 政紀

大学での4年間、同世代の人たちと同じ目標を胸に切磋琢磨するという経験は田舎から上京した私にとって常に新鮮で、「マンガ家の夢に少しでも近づけるように」と入学を志した頃には想像できないほど刺激的な日々でした。コロナ禍で大きく生活が変貌していった混乱の中でも真摯に向き合ってくださった先生や先輩方の元で学べたことで、自分の視野が大きく広がるきっかけを幾つも得ることができました。その中でも印象的だったのは、学校の内外で似顔絵を描かせていただいたサークル活動です。私自身の描く行為に対価が生じること、またお渡しした

完成品を喜んでもらえたこと。老若男女、様々な人々との交流の場に参加する機会を数多く得られたことで、自身の画力の向上だけでなく、「絵を描くことを仕事にする」ことで生じる責任感、そして達成感を肌で感じる事が出来ました。大学を通して得た経験のひとつひとつを糧に、卒業後も夢に向かって作品を描き続けていきます。





2023フォックス・タルボット賞

フォックス・タルボット賞は、写真表現に情熱を傾ける若い写真家の登竜門としての役割と国際的視野をもった写真家を育成することを目的に、1979年東京工芸大学短期大学部に設けられ、今回で44回目を迎えます。本賞は、ネガポジプロセスの発明者ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット氏(英・William Henry Fox Talbot 1800-1877)の偉業をたたえ、イギリスのフォックス・タルボット美術館のご協力をいただき、氏の名前を冠した賞となっています。

昨年度より同窓会からこれまで以上のご支援を賜り、協賛金によって入賞者への奨励金の増額と、新しい写真表現にチャレンジした者に送られる「奨励賞」を新設できましたこと、ここにあらためて御礼申し上げます。おかげさまで、今回は在校生からの応募のほか、卒業生からもこれまで以上に多くの作品が寄せられました。本賞がこれまでも増して、本学を巣立ち、社会の荒波の中で創作を続ける卒業生の皆さまの励みになればと思います。

第一席には、写真学科4年生、星子桃花さんの「島を渡る」が選ばれました。在学中に何度も沖縄に通い取材を重ねることで、作品に現地の湿度や熱気をも封じ込めることに成功しています。デジ



タル合成やセットアップなどを多用した美術志向の作品が注目されがちな今日にあって、写真の備える記録性の意義をあらためて考えさせてくれる取り組みです。

星子さんの作品をはじめとする今回の受賞作品は、写大ギャラリーで2月27日から3月25日まで展示され多くの来場者の目に触れることとなりました。また、会期中の3月18日には、2019年以来じつに4年ぶりに対面で表彰式がとりおこなわれましたことは、少しずつ平穏な日常が戻りつつあることを感じさせてくれる嬉しい出来事でした。

卒業生の皆さま、卒業後10年までという制限はありますが、ぜひ次回の「フォックス・タルボット賞」へのご応募をご検討ください。お待ちしております。

フォックス・タルボット賞運営委員長
教授 圓井 義典

2023フォックス・タルボット賞は、2023年2月1日に審査が行われ、下記の方々が受賞しました。

2023フォックス・タルボット賞 受賞者

| | | | |
|-------|--------------------|----------|------------|
| 第一席 | 島を渡る | 星子桃花 | 芸術学部写真学科4年 |
| 第二席 | ポーン | 吉村 周 | 芸術学部写真学科3年 |
| 第三席 | 景観と境界 | 磯崎龍平 | 芸術学部写真学科4年 |
| モノクロ賞 | 重ね | 山崎心宇 | 芸術学部写真学科4年 |
| 奨励賞 | femina | 渡邊結愛 | 芸術学部写真学科4年 |
| 佳作 | Time Machine | 木村奏斗 | 芸術学部写真学科4年 |
| 佳作 | Musica. Con amore. | 上野瑠夏 | 芸術学部写真学科4年 |
| 佳作 | 根無草 | Chi Chao | 芸術学部写真学科4年 |
| 佳作 | 私の声を記録する | 中曽根希音 | 芸術学部写真学科4年 |
| 佳作 | ほんの僅かに夜 | 高森千瑛 | 芸術学部写真学科4年 |

審査委員の先生方 立木義浩(審査委員長) 中谷吉隆 小林紀晴 梁丞佑 本城直季 (敬称略)

※学年は受賞当時のものです。

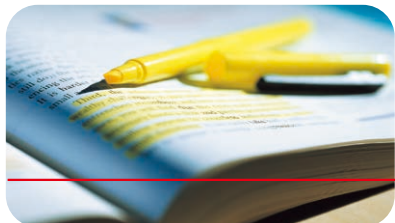


第13回ホームカミングデー

2023年3月18日(土)、中野キャンパス1号館で大学主催の「第13回ホームカミングデー」が開催されました。専門学校、短期大学、短期大学部、芸術学部、工学部、女子短期大学部の各卒業生が対象で、80名ほどの方にご参加頂きました。1B01大講義室での式典では、吉野弘章学長より歓迎のご挨拶があり、今年大学が創立100周年を迎えたことの報告がありました。また、卒業50年目・25年目の卒業生に対し恒例の学友記が授与さ

れました。式典のあと学生食堂に移動し懇親会へと続きます。岩田工学部同窓会長のご挨拶に続いて、宮永女子短大同窓会(華輪会)会長の「いただきます」の発声で軽食を食べながら歓談のひとときを過ごしました。最後に本同窓会の安達会長の締めで宴はおひらきとなり、施設見学ツアーに参加する人、仲間同士で飲みに行く人、帰路につく人…みなさん笑顔で大学を後にされました。





2023年3月23日、中野サンプラザ・ホールにて2022年度芸術学部・芸術学研究科の学位授与式が執り行われました。東京は前日に全国一番乗りで桜満開のニュースが入ったばかり。天気はあいにくの雨模様でしたが、式典は今年も7学科と

大学院を午前と午後に分割し、短縮プログラムで挙行されました。会場は卒業生の溢れんばかりの笑顔、笑顔、笑顔…。皆様の今後のご活躍をお祈り申し上げます。



2022年度 学位授与式



写真提供：都筑写真事務所

ひろばのページ

|2023年度入学式

2023年4月3日、東京体育館にて2023年度の入学式が挙行されました。芸術学部にて710名の新しい仲間が加わり、会場には新入生の希望に満ちた表情が溢れていました。



|令和4年度 後期理事会開催報告

令和4年度 同窓会後期理事会を、令和4年12月19日(月)15:00~18:00、中野サンプラザ11階宴会場プロッサムにて開催いたしました。構成理事31名のところ、16名(うち委任状12名)の出席により理事会開催が成立し、全ての議案に関してご承認頂きました。

議題

1. 前期事業報告について(報告事項)
 - (1)事業委員会
 - (2)総務委員会
 - (3)広報委員会

- (4)名簿委員会
2. 令和4年度中間収支報告について(報告事項)
3. 後期事業計画について(報告事項)
 - (1)事業委員会
 - (2)総務委員会
 - (3)広報委員会
 - (4)名簿委員会
4. 100周年事業委員について(承認事項)
5. 同窓会創立100周年記念事業について(報告事項)
6. その他

投稿 写真大学に感謝を込めて……

この世、運はどこから巡ってくるかわからない。私の高校からの趣味は写真を撮ることだった。父と母を早くに亡くし、高校時代からアルバイトの連続、それも写真のdp屋で毎日紙焼きの連続だった。大学なんて行けるはずもなく、中野にあった写真大の技術科を希望したがここに受からずに工業科の写真製版に入学。奨学資金もいただいた。ところが、当時名古屋にあった中日新聞が東京に進出。ここで運よくこの社の写真製版部に就職できた。

ある強風の日横浜の家に帰ると、隣からの貰い火で家が全焼していた。一時は原宿の寮に入ったが狭く、会社と銀行から金を借りて千葉県田舎の一軒家に入る。ところがここから日比谷の中日新聞まで3時間もかかる、それで趣味の電算機の本ばかりを読んでいた。この時、ふと思いついたのが電算機での新聞作り、早くきれいな新聞ができる。米国ではこの状態が進んでいたの、こ

れを社のトップに提案したところ見学とプログラム研修に行けという事に。。。」

これから米国の著名な新聞社17社の見学とIBMでのプログラム研修にもうハッスル。

要領よく英国・フランス・ドイツの新聞社も見学しレンタカーを借りて巡り満足した。社にはIBMの大型電算機が入り、これ専門の部署もでき、私は課長・次長・編集局次長と昇格し無事電算機によるきれいな新聞が出来上がった。

もし家が強風で焼けなかったらこのような幸運は巡ってこなかったろう。この時の外国経験が糧となり、その後、妻とロシアを含むモロッコの砂漠まで出かけラクダにも乗り満足している。写真大学様様である、、、一生この感謝は続けたい。。。

中村寛治(30期 写真工業科写真製版技術専攻)

展示会・出版の記録

展：展示会名 作：作者 所：場所 期：会期
※学年、職位等は開催当時のものです



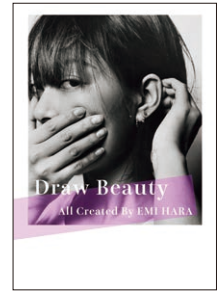
展：金森玲奈 チャリティー写真展「イヌネコLovers vol.5」
作：金森玲奈(写真学科77期)
所：Maison PHOTOGRAPHICA
期：2022.11.18-11.23



展：田代つかさ写真展「スペクトラム・アナライザー」
作：田代つかさ(写真学科99期)
所：Alt_Medium
期：2022.12.16-12.21



展：山下晃伸 写真展「夜光性静物観察記」
作：山下晃伸(写真学科82期)
所：アールスペース銀座ワン
期：2022.12.12-12.17



展：原 枝美写真展「Draw Beauty」
作：原 枝美(写真学科77期)
所：山崎文庫
期：2022.12.26-2023.1.21



展：山口規子写真展「I was there.」
作：山口規子(写真学科61期)
所：ソニーイメージングギャラリー銀座
期：2023.1.6-1.19



展：東京工芸大学芸術学部写真学科パライタファインプリントゼミ(ゼミ展)
作：イン ルンミン・木澤健介・北 洞花・チン キョウトウ・土屋莉菜・ブンナーケ ナリト・町田 海・三枝俊平・武藤巧樹・ヨウ テンリン・ラク キョウ・リン シテイ(写真学科3年生)
所：Alt_Medium
期：2023.2.3-2.8



展：写真専攻 大学・専門学校選抜作品展 New Generation Photography 2023
作：安孫子綾乃(写真学科3年生)
所：ニコプラザ東京THE GALLERY
ニコプラザ大阪THE GALLERY
期：【東京展】2023.2.14-2.27
【大阪展】2023.3.9-3.22



展：東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了作品展2023
作：
所：東京工芸大学中野キャンパス
期：2023.2.17-2.19



展：京都芸術大学/大学院(写真・映像) + 東京工芸大学共同選抜展
「写真は変成する3 INTERPLAY on POST / PHOTOGRAPHY」
作：大矢彩加・金田 剛・小林菜奈子・道場美秋・宮本十同・森 凌我
所：京都芸術大学瓜生山キャンパス
期：2023.2.20-3.4



展：金森玲奈 写真展「1/fのゆらぎ」
作：金森玲奈(写真学科77期)
所：MONO GRAPHY CAMERA & ART
期：2023.2.23-3.19



展：2023フォックス・タルボット賞受賞写真展
作：星子桃花・吉村 周・磯崎龍平・山崎心宇・渡邊結愛・木村奏斗・上野瑠夏・Chi Chao・中曽根希音・高森千瑛
所：東京工芸大学 写大ギャラリー
期：2023.2.27-3.25



展：GELATIN SILVER SESSION SPIN-OFF PROJECT 2023「写真への手紙」
作：勝倉峻太(写真学科75期)・小林紀晴(写真技術科63期)・田中 仁・広川泰士・秋山麻結・石井裕子・石田菜々・上野瑠夏・大内綾乃・欠端カナン・木澤健介・北洞 花・君島太起・ショウイゼン・武石蓮花・土屋莉菜・町田 海・三枝俊平・武藤巧樹・リョウメイゲツ・渡邊結愛
所：AXIS GALLERY
期：2023.3.3-3.8



展：東京工芸大学芸術学部写真学科「肖像写真研究室 作品展2023」
作：写真学科 肖像写真研究室
所：ポर्टレートギャラリー
期：2023.3.9-3.15



展：田沼武能写真展「人間讃歌」
作：田沼武能(写真技術科24期)
所：東京都写真美術館
期：2023.6.2-7.30

訃報

衷心よりお悔み申し上げます。

| | |
|--|--|
| 梶野正敏 (23期・写真技術科) | 市川恵一 (39期・写真工業科) |
| 仁籐淳司 (23期・写真技術科) | 長田邦彦 (41期・写真印刷科) |
| 大野辰男 (24期・写真技術科) | 牛島敏行 (44期・写真技術科) |
| 木下登 (26期・写真技術科) | 安田卓也 (44期・写真印刷科) |
| 池田文一 (27期・写真技術科) | 奥村順子 (45期・写真技術科) <small>(旧姓 木立)</small> |
| 有田洋子 (30期・写真技術科) <small>(旧姓 田中)</small> | 戸出裕子 (49期・写真技術科) |
| 角田勝彦 (32期・写真技術科) | 島田実 (54期・写真応用科) |
| 吉田喜英 (39期・写真印刷科) | |

(敬称略)
訃報は御親族の承諾を頂いた方のみ掲載させて頂いております。

掲載記事の募集

「ひろば」に掲載する記事を募集します。エピソードや同期会・クラス会(規模の大小は問いません)など、楽しい記事をお待ちしております。テキスト原稿・集合写真などを、メールもしくは郵送で同窓会事務局までお送り下さい。紙面編集の都合上、原稿は広報委員会で調整させて頂く場合がございます。予めご了承下さい。よろしく願い申し上げます。

編集後記

中野のシンボルとも言える「中野サンプラザ」がいよいよ今年の7月に閉館になります。学位授与式や同窓会の総会・会議などでも長年お世話になっていたのが、“サンプラザロス”を感じる次第です。大学は新年度を迎え、学内においても「マスクの着用は個人の判断」となり、徐々にコロナ前の日常に戻りつつあります。入学してきた新入生はとても元気です。卒業生の皆さんとも、同窓会で直接お会いできる日も近いのではないかと期待を抱く今日このごろです。

上田 耕一郎(75期)